

# 飲水思源

町長 松岡市郎

## ふるさとに寄せられた一通の手紙

札幌東川出身会の会員の方から一通の手紙をちょうだいした。「先祖が明治28年、乙未(きのとひつじ)の年に富山県から入植し、今年は同じ乙未の年を迎え、干支の2巡する年でもあり、何か記念となる企画を行っては」との提言であった。

さて、本州各県から開拓団などが実際に入植したのは1895(明治28)年であるが、本町の先人は、開拓測量が行われた明治27年を起点として祝賀行事を展開してきた。昨年開拓120年という一つの通過点を記念して東川小学校の移転竣工を実現し、未来を創る子供たちの教育施設の充実を祝った。今年はサッカー場、野球場というスポーツ施設のオープン、そして稲づくり体験水田や畑も出来、学校給食のお米はすべてこの水田で収穫したものを活用することになっている。

水稲は、明治29年に富山県から団体入植した方々が初めて栽培してから今年120回目の収穫を行う。節目となる年も重なり、意義深い年に体験農園をスタートすることができた。本町

の産業の基盤であり国民の命の源である米作りは、先人が血や汗を流し守ってきた。農業の大切さと役割を学び、後継してほしいと願っている。

先人は1985(昭和60)年に写真の町を宣言した。「写真文化と国際交流を通じて、世界に開かれた自然と文化の調和した」町づくりを条例の中に明記している。今、私たちは先人が条例の中に込めた熱い思いの実現に向け積極的に取り組んでいる。それは地方創生そのものでもある。

手紙には、故郷の発展を讃歌する次のような和歌が3首添えられていた。新墾(にいばり)して百二十年古里は写真の町と自ら誇る  
祖(おや)たちの開拓の功讃えかし  
原野を美(は)しき田や街とせる  
東川のブランド創出見事なり写真甲子園東川来

東川町を故郷とする人々が、故郷に対する関心と思いを持っていただいていることは、私たちの大きな励みであり自信にもなる。ありがとうございませう。

## ラプラスの魔女(一般書)

東野圭吾：著 KADOKAWA：刊



元警察官の武尾は、円華という若い女性のボディガードを依頼された。円華と行動を共にするにつれ、彼女に不思議な「力」が備わっているのでは、と疑い始める。同じころ、遠く離れた2つの温泉地で硫化水素による死亡事故が起きていた。検証に赴いた地球科学の研究者、青江は、双方の現場で謎の娘、円華を目撃する。彼女はいったい何をしようとしているのか？

## 君が僕の息子について教えてくれたこと(DVD)

発売元：NHKエンタープライズ



自閉症である東田直樹さんのエッセイ「自閉症の僕が飛び跳ねる理由」。自分の心の内をつづったエッセイがイギリス人作家、デービット・ミッチェル氏目のとまった。なぜなら東田さんの本は、自閉症の息子を持つミッチェル氏にとって、まるで息子が自分に語りかけているように感じられたからだという。この二人の出会いから生まれた希望の物語。(59分)

## 貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館  
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★  
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



## かぐやのかご(児童書)

塩野米松：作 浜野ゆか：絵 佼成出版社：刊



清香は、男の子たちにいじめられて泣きながら下校していましたが、突然、話しかけてきたのは、竹細工職人のおばあちゃん。清香は次第におばあちゃんに心を開いていき、学校での理不尽な出来事を話します。それを聞いたおばあちゃんは、人の罪を背負うという「トガ負いさん」の話をしてくれるのでした。世代を超えた温かくゆるぎない友情を描きます。